

眞山青果 ましま 小説家、劇作家、考證家。明治十一年九月一日宮城
 縣生れ、昭和二十二年二月二十五日歿（八七—九五）。本名彬 かきら。別號
 亭々生、青果小史、青果生、AM生、SM生等。第一高等學校醫學部
 中退。上京して小泉風葉の門に入り自然主義作家の列に連なるも、明
 治四十四年の原稿二重賣り事件以後創作に轉じ、重厚な歴史劇を續々
 發表して斯界の第一人者となる。昭和十七年帝國藝術院會員。新劇演
 出家眞山美保はその長女。『眞山青果全集』全十五卷（昭和十五年—
 十七年大日本雄辯會講談社）、『眞山青果全集』全十八卷補卷五別卷
 一（昭和五十年—五十二年講談社）刊。

著書『青果集』（明治四十年十一月—二十日新潮社）、國木田獨步著

『病牀録』（編、明治四十一年七月十五日新潮社）、『奔流』（明治

四十一年十一月十日新潮社）、『むら雲』（合著・大河桂月・樋口龍

風編、明治四十一年一月十五日高有海堂）、『夢』（明治四十一年五

月—二十八日新潮社）、『壁』（明治四十一年七月十七日春陽堂）、

『元祿巷談』全一冊（前編・明治四十二年八月—二十五日、後編・十月

六日新潮社）、『五人女』（明治四十一年十月—十八日、改版・大正

六年九月五日新潮社）、『賣女』（明治四十五年八月七日今古堂書店

『新作文庫』（『不仕女の一生』（大正二年六月十八日春陽堂）『現

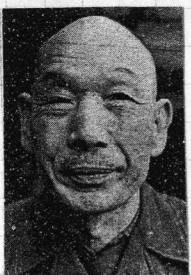
代文藝叢書』（『南山泉村』（大正七年二月二十日新潮社）『代表的

名作選集』（國木田獨步原作『脚本酒中白記』（脚色、大正八年九月

—二十日新潮社）、『燈の舞』（大正八年十一月—

十八日新潮社）、『枕屋久兵衛』（大正十一年一月

十七日—二十日堂書店）『表現叢書』（『眞山青果戯曲



- 集」全二編（第一編『平將門』大正十四年二月十日、第二編『長英』六月五日、第三編『叛逆時代の將門』十五年二月一日新潮社）、『少年の頃・上巻』（合著・山野誠悟編、大正十四年四月、千白第一出版協會「少年少女文藝叢書」）、國木田獨步原作『^脚本宮岡先生・酒中白記』（脚色、大正十五年五月十日新潮社）、『江戸城總攻』（大正十五年六月、千白春秋社）、『四十一年』（第一版・昭和二年一月十日、千白小山澤一刊、大盛堂書店發賣）、戯曲『大鹽平八郎』（昭和二年二月、千白新潮社）、『^讀小僧次郎吉』、『^桃中野雲右衛門』（昭和二年九月十日、千白改造社）、『^讀金四七萬兩』、『^假名屋小梅』（昭和二年十一月、千白南宋書院）、戯曲『坂本龍馬』（昭和二年八月、千白^新國劇專柳蛙書房）、^又『^讀講好色一代女・卷の二』（共著・三田村為魚編、昭和二年十月五日春陽堂）、戯曲『江藤初平』（昭和五年七月十五日改造社）、『乃木將軍』（昭和八年十一月、千白大日本雄辯會講談社）、『隨筆瀧澤馬琴』（昭和十年十一月、千九百サイン社）、『仙臺方言考』（昭和十一年九月五日江書院『言語誌叢刊』）、『西鶴傑作集』（昭和十二年六月十日春陽社書店）、『獨歩全集・10、獨歩病牀録』（編、昭和十四年一月、千白新潮社「新潮文庫」）、『おの母ぎ語る』（合著・家庭新聞社編輯局「新妻洋村」編、昭和十五年十一月二日家庭新聞社出版部）、『西鶴語彙考證・第一』（昭和二十二年一月十五日中央公論社）、『^おの母と長共他二篇』（昭和二十七年九月五日岩波書店「岩波文庫」）、『^讀山書東隨筆選集・第一卷』（昭和二十七年十一月十日大日本雄辯會講談社）、『南小泉村他四篇』（昭和二十八年十一月五日岩波書店「岩波文庫」）、『元禄忠臣蔵』全二冊（上・昭和

五十七年八月十六日、下・九月十六日岩波書店「岩波文庫」等。

文献、田辺明雄著『真山青果』(昭和五十二年四月十日共済社)、大

山功著『青果劇のこころ』(現代史劇の巨匠) (平成元年四月二十日木

耳社「オリエントブックス」)等。